

資料 2

えらぶゆりの社会的評価

えらぶゆりの市場評価について

平成 31 年 2 月 25 日
東京都中央卸売市場大田花き市場花き部
株式会社 大田花き



『えらぶゆり』は、出荷時期が 12 月から 4 月と冬場のテッポウユリ産地として、高い評価を受けている重要な産地である。

特に、年末及び春彼岸において、テッポウユリは大変重要な商材であり、なかでも『えらぶゆり』は、他産地と比較して数量も多く、安定した単価で取引されている。

また、出荷規格の統一、検査体制が整備され品質の向上が図られたことにより、実需者からの信頼もあり、今後の需要が見込まれる。

令和元年 11 月 20 日

えらぶゆりの市場評価について

福岡県花卉農業協同組合

地方卸売市場福岡花市場

代表理事組合長 笠 文樹



鹿児島県は、12月から4月に「えらぶゆり」を安定的に出荷いただける産地としてとても重要です。

花きの消費において、ユリは業務・量販での引き合いが強く、1本でも高い存在感を持つことから、人気の高い商材です。このため、年間を通じて需要があるのですが、冬季はテッポウユリの出荷量が減少してしまいます。

そんななか、12月から4月に出荷を頂ける「えらぶゆり」は、年末年始や春彼岸の需要期において大変貴重な商材であり、他産地と比べて品質が高く供給量も多いことから、安定した単価で取引ができます。予約相対取引も増加しており、今後も需要の増加が見込めます。

更に、産地を挙げての取り組みとして、出荷規格の統一と検査体制が整備されたことにより、品質の向上が図られたため、実需者からの信頼も高まっています。

えらぶゆりの市場評価について

令和2年4月7日
秋田生花株式会社



『えらぶゆり』は、12月から4月において当市場のシェア86%と数量も多く、また安定した単価で取引されていることから、冬場のテッポウユリ産地として重要な役割を果たしている。

また、出荷規格の統一化や検査体制の整備がなされているほか、南西諸島から出荷しているにもかかわらず、鮮度保持剤や真空予冷により品質保持が図られていることから、実需者からの信頼も厚く、今後も需要が見込まれる産品である。

えらぶゆりの評価について

令和2年4月7日

株式会社みづき



「えらぶゆり」は、純白な花とほのかな香りが特徴であり、近年オリエンタルリリーのような香りの強いものが多い中、香りが強すぎず、凛とした姿のえらぶゆりは葬儀に適した花材といえる。

また、「えらぶゆり」は自然条件で栽培し12月から4月にかけて供給量が多いほか、葬儀業界においても、冬期（12月から2月）は亡くなる方が多い時期になっていることから、需要と供給が合致する商材である。

特に、本県においては、冬期の市場出回り量の多数が「えらぶゆり」となっているほか、単価も安定していることから、なくてはならない花材となっている。

【市場評価補足情報(会社概要等)】

「秋田生花株式会社」

代表取締役社長 橋本 正史氏 (令和2年6月15日 電話で聞き取り)

* 秋田生花株式会社は、秋田県で切花取扱量1位を占める市場である。

切花の取扱量はセリ取引が一般的であるが、秋田生花株式会社では「えらぶゆり」の品質の高さを評価いただき、昭和60年から予約相対取引での注文を受けており、特に年末及び春の彼岸需要期には多くのえらぶゆりを相対で取引している。橋本氏は、秋田生花株式会社の仕入れ担当を長く行い、他産地のユリについても精通している。

「株式会社みずき」

代表取締役社長 大沢 重己 (令和2年6月15日 電話で聞き取り)

* 株式会社みずきは、秋田県で花卸事業を行っている会社で、葬儀業界に葬儀用の花材を提供している。またパック花事業も取り行い全国各地の切花を取り扱っている。

えらぶゆりについては、特に年末、春彼岸は多くのえらぶゆりを、予約相対で注文し、葬儀用として指名で購入いただいている。